

調査研究課題	山梨県における外来底生生物調査	
調査研究期間	平成22年度～平成23年度（2カ年）	
目的・目標	<p>近年、我が国では外来生物の侵入・定着による環境への影響が危惧されている。侵入する外来生物は多岐にわたり、その分布等について様々な調査が行われている。河川や湖沼等に棲息する底生生物についても調査が行われ、近県でも外来種の棲息が報告されているが、本県での調査例は今のところ非常に少ない。</p> <p>そこで本調査は、外来底生生物の中から水生生物調査による水質判定に影響を与える可能性が指摘されている外来プラナリアと、爆発的な繁殖力を持ち、侵入水域の生物相に対し影響を与えることが懸念されているコモチカワツボ（巻き貝）を中心に外来底生生物の県内水環境における棲息実態を調査し、これら外来生物がどの程度県内に侵入・分布しているか明らかにすることを目的に実施する。</p>	
方法・計画	<p>文献調査と過去本県で行われた水生生物調査結果等の解析を行い、調査対象とする外来底生生物の棲息する可能性が高い河川等を抽出する。</p> <p>調査対象河川等を一定間隔に区切り、一区間内で複数の調査地点を選定し棲息調査を実施する。</p> <p>目的とする外来生物の棲息が確認された場合、棲息密度等の調査を行い分布状況を把握する。</p>	
総合評価点		4
総合評価コメント	<p>外来生物の環境への影響は予測が困難である。</p> <p>影響が顕在化する以前に本調査をおこなうことは基本的な状況を把握する上で重要だと考える。</p> <p>外来生物の存在が確認できた際には継続的な調査も必要になると思われるが、分布把握のための広範囲の調査をめざすのか、現象の詳細な解析をめざすかなど、方向性を絞った調査を検討する必要があるだろう。</p>	
所の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・両種の予備調査の結果を踏まえて、分布調査を実施する。 ・プラナリアについては、水生生物調査の測定地点で調査を行う。 	

5:優れている, 4:良好, 3:概ね良好, 2:部分的な見直しを要す, 1:全面的な見直しを要す